

## 将来都市像の市民会議案に対する意見

## 1 焼津市総合計画等審議会委員からの意見

第2回焼津市総合計画等審議会（11月17日）開催時の意見です。

**○歴史・文化の視点**

- ・焼津市には、焼津が持つ自然や風土から生まれた歴史や文化（積み重ね）があって今の焼津市（豊富な地域資源）がある。
- ・計画期間を定めない都市像であれば、普遍的で揺るがないものにする必要があるため、産業を基盤（軸）にしながらも、これまでの焼津の発展を築き上げた歴史や文化の視点は大事ではないか。
- ・文化の交流をとおして、いろいろなところとつながって、発展できたらいいと考える。

**○誰にでもわかる表現**

- ・焼津弁の使用は、市内の人には伝わるかもしれないが、市外の人も含め誰もがわかるような表現のほうがいいのではないか。
- ・子どもたちの意見も多く聞いている中で、高齢者や子どもではわからない英語や、大人視点の単語の活用については検討したほうがいいのではないか。基本的には、一般的でわかりやすい日本語を使用した方がいいのではないか。

**○少子高齢化に適応した市民像**

- ・焼津の人は、すごく優しいという印象があり、人のやさしさが都市像で表現されることは、焼津の強みの一つである。
- ・人のやさしさは、子どもたちからの意見でも多くあり、やさしい気持ちを持った子どもが成長する都市像はすばらしい。
- ・誰もが焼津に住んでよかったと思える都市像として、「誰もが主役」、「市民同士の助け合い」という表現は大事である。

## 2 庁内意見

第3回施策主管課長会議（12月1日）開催時の意見です。

- ・班の域を超えて、各班で検討した主題・副題のいいものを組み合わせると良い。
- ・海や港は焼津をイメージしやすいが、他の海や港をイメージする市町との差別化が必要。海や港のイメージに加え、「はばたく」等将来への期待や希望を連想する単語を盛り込んだらどうか。
- ・同じ単語を何度も用いることについては、検討が必要。